

月刊「ワークホームだより」1月号

発行:2024年 12月 26日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



今年の一文字「迷」

ワークホーム高砂 楠 英充

今年も残りわずかとなりました。年を重ねる度に一年が早く感じます。

さて、前回私が担当させていただいた9月号の巻頭文で国の就労系福祉サービス(就労継続B型)の予算を利用している皆さんに均等に分配すると月額118,840円であるという事を書かせてもらいましたが、その事実を事業所としてどう受け止めるのですか?という鋭いご指摘がありましたので少し触れたいと思います。

就労系福祉サービス、特に就労継続B型事業では生産活動を行い、その対価として工賃を支払いなさいという事になっています。ですが実際に支払われている工賃は下記のようになっています。

B型の全国平均月額工賃 16,369円 兵庫県月額平均工賃 14,914円(令和4年度)

何故私がこのような事を書いたかという、1人当たり月額にして118,840円というお金をいただきサービス事業所を運営させてもらっています。私は、これだけの金額を頂いているのだからそれ相応のサービスを提供していかなければならないと思っています。サービスとは作業だけでなく、その他日中活動における全ての活動で、より良い環境で自分にあった作業を提供してくれることだと思います。「働く」を主軸に置いたワークホーム高砂では、作業を提供したから良しではなく、利用者さんのライフステージに合わせた作業提供、よりよい生活の為の工賃財源の確保、そしてなにより「働きたい」を感じられる作業提供することが職員の務めと思っています。障害者の働く環境は目覚ましい勢いで良くなっています。障害者雇用についても多様な働き方ができる環境が整いつつある中、ワークホーム高砂としてはそれでも雇用が難しい方、働きたいと思っても働く場が無い方への作業の提供も行っていきたいと思っています。多様性が加速し、自分の生き方を選択できる世の中において、障害があるからという理由で世の中の流れから外れることはおかしいと思います。私がよく使う「大人として」という言葉には障害の有無に関係なく、1人の大人として暮らしていくという意味を含めています。

では、私たち社会福祉法人が、就労系サービス事業所が何をやっていかなければならないのか?利用者さんが望んでいる生活は何なのか?その実現の為には何が必要で何をサポートできるか?そんなことを考え迷っているうちに年末となりました。まだ明確な答えを見つけられず、ああでもない、こうでもない迷っている最中ではありますが、職員と一緒に「働きたいのある職場」「働きがきちんと評価される職場」「自分の能力を遺憾なく発揮できる職場」そんな事業所を目指して取りこんでいきたいと思っています。

来年の一文字は決意の「決」と言えるよう頑張りますので、来年もよろしくお願いします。



1月4日(土) 作業開始日

1月8日(水) 工賃支給日

1月11日(土) 季節行事



ばんたんゆうあい



11月29日~12月2日まで「ばんたんゆうあい作品展」がイーグレ姫路で開催されました。ワークホームからは、みんなで愛情込めて育て、収穫祭で美味しくいただいたスイートコーンで作った作品を展示しました。スイートコーンの芯を輪切りにして乾かし、それを染料で着色したものをパネルに貼っていきました。ワークホームが創立20周年の記念年でしたので「花・みんな笑顔」と題し、記念の祝いと綺麗な花畑を表現することができました。皆さん「これ楽しいな!」「そっちの色もやりたい」と楽しんで参加してくれました。本当に笑顔あふれる取り組み、そして、作品になったと思います。これからもワークホームに笑顔の花が咲き続けますように!

(山崎)



法人虐待防止研修会



12月7日(土)に法人全体の研修会が開催されました。内容は大きく3つで、虐待防止研修、ハラスメント研修、BCP(事業継続計画)報告会です。法人で働いているパートさん含め70人の職員が一堂に会し、グループワークで学びと交流を深めました。

虐待防止研修では基礎に立ち返りいくつかのケースを共有し事業所、先輩後輩関係なく意見を出し合いました。現場で働く私たちにとっては日々虐待と隣り合わせであることを再確認しました。BCP研修では各事業所の大きな地震が起きた際や水害時の避難想定などを確認しました。とても緊張感のある研修になりました。

(重田)

今月の担当は、新山でした。





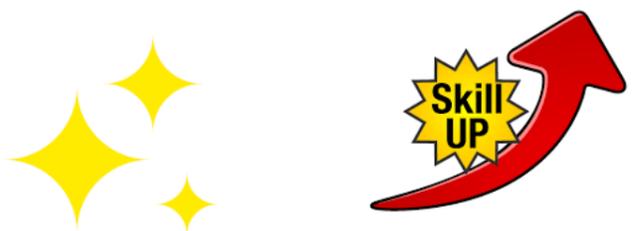
12/21(土)にワークホーム・納豆工房・保護者会共催のクリスマス会を今年できた曾根交流センターで開催しました。合計 75 人の参加ありがとうございました。納豆工房なっとこちゃんによるレクリエーションを楽しみ、昨年に同様、山崎支援員による指導のもと、利用者、保護者全員で合唱を行いました。利用者さんの楽しんでいる姿が見られてとてもよかったです。今年度も保護者さんのお力添えのもと充実したクリスマス会を行うことができました。 (吉中)



就労支援フォーラム NIPPON

12月14、15日に東京ビックサイトで行われた、就労支援フォーラムNIPPONに野村と重田で参加してきました。「何のための就労支援なのか？」をテーマにB型事業所の現状とこれらについて、全国の様々な事業所の取り組みを聞くことができました。

支援者としてのスキルアップはだけでなく、事業所としてどのように進んでいき、何を目指していくのかを常に考えていく必要があると再確認させられました。 (野村)



加古川はぐるま福祉会

障害者就労支援者研修会

12月5日に障害者就労支援研修会に参加しました。今回の研修ではひょうごジョブコーチの方が講師にいられており、就労するまでの流れやポイントを勉強してきました。就労するまでに大事なことは利用者さんが能力に応じた役割と責任を持って働けること、企業側は自然に受け入れる体制が整っていることが大事なことで学びました。

今後就労を考えている方もいると思いますので、まずは利用者さんの思いを最優先し、就労するまでに必要なことをサポート・応援していきたいと思いました。 (長瀬)